

加藤 正子

Masako KATO



この一年間、コロナでリモート化が進み、社会全体のコミュニケーションがより希薄し、中には孤独を抱える人も…。今こそ人と人とのつながり、そして自己を見つめなおすべき時かもしれません。今回ご紹介するのは「食」と「空間」を通じてその時々世に求められている催しを企画、人間の内なる深いところに響く「何か」を発信し、まち全体のエネルギーの活性化に取り組むバイタリティに満ち溢れる女性です。

彼女の横顔

大野台の住宅地にある一軒家、そこでご主人とともに自家製手打ちの十割そばのお店を営むのが今回ご紹介する加藤正子さんです。趣のある和風邸宅を改装した隠れ家の様なお店。門にかけられた暖簾をくぐり玄関をあがると広々とした座敷、黄土の土壁、立派な梁、南側の手入れの行き届いた庭に面した広縁からはやわらかな日が差し込みます。座敷には加藤さんが自ら描いた生命を題材とした抽象画や、一つ一つ表情の異なる大小さまざまなお多福の置物などが飾られて、和の空間の中に独創的な雰囲気散りばめられています。加藤さんはここを切り盛りする傍ら、お店を会場に様々な催しを企画しています。お店の土壁をスクリーンに絵本の世界を映し出す宮沢賢治作品の朗読劇、歌う瞑想



ふるふる ゆらゆら

愛しい自分と遊ぼう

土地に秘められた力

加藤さんが多岐に渡る活動をする中で大事にしているのは「縁」。人とのつながり、その縁が広がって自身の人生が紡がれてきたと話してくれました。小学校3年生の頃に大阪狭山市の地に越して、ずっと大阪狭山市に居を構え、この土地が発する力と人々の魅力に生かされてきたと加藤さんは話します。



加藤さんが手がける催しはどれも優しく幻想的な世界が広がります。自らもいち表現者として天河弁財天の能舞台で即興の舞を披露、宇豆たまアートという絵のワークショップを開催するなど、精力的な活動を行う加藤さん。最近「パーソナリティを読み解くカウンセリング」を行い、一人ひとりの取扱説明書を伝える活動にも力を入れています。



「当時の最先端技術の結集である日本最古のため池、狭山池があり、古くから人々の交流があった狭山は文化的な要となる地であり、歴史とエネルギーが秘められた地と感じます。それ故に狭山には表には出なくとも知的文化人も多い気がします。狭山は人が大事な資源。狭山池の龍神伝説や北条氏を題材に表現活動を行う、表現倶楽部うどい」の存在も誇らしく

人が輝くとまちは輝く

加藤さんがいま最も伝えたいことは尊重し合うこと。「これまでは他者と比較して競争の世界で生きてきたような時代。これからは個性を尊重し合い、手を繋いで生きていく時代。それにはまず、自分自身をおもしろがり、受け入れること。自分のコップは自分で満たす。その力が自立につながり、自ずと他者とも向き合えると思います。内側から溢れ出てくる個のエネルギーが地域のエネルギーに増幅され、まち全体が輝きはじめる。その人にしかない魅力を尊重することで新しい響き合いが生まれるはず」と。

童謡詩人金子みすゞの詩『わたしと小鳥と鈴と』に「みんなちがって、みんないい」という言葉があります。それはエゴイズムの容認ではなく、自己を肯定する大切さを教えてくれています。変容する社会の中で、多様性を認め合うことが求められていると気付かされました。

インタビュー中、終始にこやかに話す加藤さん、そのお姿はまるで観音様のような様子でした。



自家製手打ち十割そば

そば屋 藍

大阪狭山市大野台2丁目13-11
TEL:072-368-1982
【営】 昼の部 11:30~14:30
夜の部 17:30~21:00
(ラストオーダー 20:00)
【休】水曜日

